

海産系人工アユの放流効果調査

福島県内水面水産試験場 調査部
平成13～17年度事業報告

1 部門名

水産業－内水面(増養殖)－内水面漁業、アユ
分類コード 19-08-22590000

2 担当者

池川 正人

3 要旨

福島県内でのアユの放流は琵琶湖産及び琵琶湖産系人工種苗が中心であったが、平成7年頃から冷水病による斃死が問題となり、この対策として罹病しにくい海産系人工種苗の生産が始まった。しかし海産系についての知見は乏しかったことから、平成11～17年度に海産系人工種苗及び琵琶湖系種苗を対象とした河川放流試験を行い、以下の結果を得た。

- (1) 放流から解禁時までの日間増重率は、琵琶湖産系の2.5～3.6%(H11～12)に対して、海産系人工種苗は2.8～4.3%(H11～17)であり、同等以上の成績であった。
- (2) 時間当たりの釣獲尾数を表すCPUE(尾/時間/人)は、琵琶湖産系の0.6～2.0(H11～12)に対して、海産系人工種苗は0.7～2.1(H11～17)であり、ほぼ同等であった。
- (3) 解禁時までの残存率は、琵琶湖産系では29.8～74.0%であり、冷水病の発生も見られなかった。

4 その他の資料等

なし